

宮古教育事務所学習指導案様式・作成のポイント

「資質・能力」の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを、どのような構成でデザインするのかを意識して、学習指導案を作成する。

各教科用

第○学年 ○○科学習指導案

Point ▶ 作成に当たっては以下の資料を参考にする。

- (1) 『学習指導要領解説』(各教科) H29.7
- (2) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 R2.3
- (3) 『「問い」が生まれるサポートガイド』〈沖縄県教育委員会〉
- (4) 『授業における基本事項』〈沖縄県教育委員会〉

令和○年○月○日 ○校時
○年○組○○名
指導者:○○ ○○

1 単元名

教材名・教科書の出版社等も明記する。
〔教科によっては、題材名となる場合がある。(例:音楽、美術、技術等)〕

2 単元の目標

Point ▶ 単元、小単元、題材、項目などは、教科によって指導計画を作成する際の「内容のまとまり」の捉え方が異なる。その「内容のまとまり」を踏まえて、『学習指導要領解説』や『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を基に、指導計画上の目標を設定することが大切である。

目標は、各教科の特性をいかし、3観点を踏まえて総括的に記述したり、観点ごとに記述したりする。

3 単元について

- (1) 教材観 ※ 体育科の場合は、(1)運動の特性 (2)子どもから見た動きの楽しさ

Point ▶ ※ 学習指導要領のどの内容を受けて設定した単元(題材)なのか明確に示す。

〈例〉本単元は、学習指導要領中学校社会歴史的分野 大項目 B 近世までの日本とアジア 中項目(3) 近世の日本 ア(ア)世界の動きと統一事業 及び イ(ア)の内容からの設定した単元である。

※ 本単元の内容の取り扱いや、「教材の系統性」について〔本単元題材にかかわる前後(前学年・後学年)の内容〕、身につけてきた力や身につけさせたい力を示す。

※ 本単元(題材)で身につけさせたい「資質・能力」についても明記する。その際に、「単元の評価規準」と整合性を合わす。

〈例〉児童は前単元で○○○○といった資質・能力を身につけている。それを踏まえて本単元では、△△△△といった「知識及び技能」や、それを活用・発揮して◇◇◇◇といった「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。

- (2) 児童観(生徒観) ※ 音楽、図工、美術については、単元・教材によって、一つの領域に重点化するのか、あるいは他の領域に加えて複数領域にするのかを決める。

Point ▶ ※ アンケート等の事前調査の結果をそのまま載せるだけでなく、日頃の観察(見取り)を含めて、児童生徒の状況を本単元の目標に照らして、実態を考察する。

※ 本単元(題材)の学習に直接かかわる児童生徒の実態を、なるべく3観点から考察する。その際に、これまでの学習で身につけている資質・能力を記述したり、不十分な点についても明記する。

〈3観点から考察する視点〉…3観点到分けて記載するのではなく、総括的に文章で記述する。

【主】「主体的に学習に取り組む態度」は、教科に対する好きか嫌いかではありません。粘り強く学習を進めようとする側面と、自らの学習状況を把握し学習の進め方について試行錯誤するなど学習調整しようとする側面から実態を捉える。

【知】「知識・技能」は、何を「知っているか」ではなく、何を「理解」しているか「何ができるか」の視点で実態を捉える。(丸暗記で対応できる断片的な知識だけでなく、記述式問題や実演などを通して、知識どうしが関連づいた状態かどうか捉える。)

【思】「思考・判断・表現」は、理解していること・できることをどう使うかがポイントで、習得した「知識・技能」を「活用・発揮」できているか捉える。(論述、ディベート、プレゼン等、課題の追求・探究)

(3) 指導観

Point ▶ ※ 「資質・能力」の育成に向けて、(1)「教材観」(2)「児童(生徒)観」から、この単元(内容のまとまり)をどのように構成しデザインしたのかを示す。令和の日本型学校教育で示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実による、「主体的・対話的で深い学び」はポイントとなる。

※ 単元の展開方針、単元の教材構造、順序、学習形態、ICT活用、個に応じた指導の視点等を記載する。

※ 「知識・技能」を活用・発揮するために、どのような各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるかが指導観の重要なポイントとなる。

4 単元の評価規準 ※例として中学社会(歴史)の単元を記載

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業と武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。	事象を相互に関連づけるなどして、近世(安土・桃山時代)の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	近世(安土・桃山時代)の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。



Point

- ※ 『学習指導要領解説』と『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』がベースとなります。教科書の指導書のみを参照しないこと。
- ※ 各教科の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』第2編に評価規準の作成方法が記載されている
- ※ 各教科の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』巻末資料に評価規準が記載されている
- ※ 各教科の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』第3編の事例集に指導と評価の計画(いわゆる単元プランシート)が掲載されている

5 単元計画(指導と評価の計画) [○時間]

毎時との関連を番号等で示して資質・能力の育成に努める

学校で重点的に育成を目指す「資質・能力」と本単元での活動(学びの姿)			
例① 自ら考える力	様々な資料や、いくつかの「スモール問い」に関連させながら追及する力	例② 伝える力	自分で考えたことを、相手に工夫して伝える活動
例③ 自ら解決しようとする力	資料を読み取り、問いに対する結論、理由付けをまとめることができる活動	例④ 練り合い創る力	友達の考えを取り入れたり、資料を多面的・多角的、または批判的に読み取り思考している活動

【単元を貫く問いは必要とする教科は記載】 ※例として中学社会(歴史)の単元計画を記載

単元を貫く問い	あなたなら、戦乱から全国統一までをどう表現しますか?
---------	----------------------------

※ 本時については、太線で囲むこと。 ※ 教科によっては様式が異なることもある。『指導と評価の一体化・参考資料』を参照

時間	上段：本時の問い(学習課題)		評価		評価規準(評価方法)	資質・能力
	下段：◎ねらい	◇学習活動	重点	記録		
1・2時	大航海時代に世界はどう変わった?		知 思		【知】資料から本時の問いにつながる情報を適切に読み取っている。 【思】16世紀に至る世界の結びつきなど交易の広がりとその影響などに着目して考察し、結果を表現している。(発言、行動観察)	①
	◎ポルトガルやスペインにより鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易がさかんになり、それらが日本の社会に影響を及ぼしたことを理解させる。 ◇本時の問いに近づくために、スモール問いを3つ(Qヨーロッパの変化?Q新航路の発見による変化?Q日本への影響?)設定し、追究させる(根拠の整理)。					
3時	信長がやったことは、どうだろう?		思		【思】中世の武家政治との違いや統一に向けた諸政策の目的に着目し、相互に結果を表現している。(発言、行動観察)	③
	◎信長・秀吉の統一事業により、中世までの勢力がおとろえ、近世社会の到来をうながしたこと、信長の諸政策の特色を理解させる。 ◇資料からの読み取りを行い、問いに対する結論、理由付けをまとめさせる。					
4時	秀吉がやったことは、どうだろう?		思		【思】中世社会との比較に着目し考察し、「近世社会の基礎がつけられたこと」について説明している。(発言、行動観察)	②
	◎秀吉の諸政策が中世的な土地制度を解体し、検地に基づく直接的な土地支配を確立したこと、キリスト教の禁止や朝鮮出兵したことを理解させる。 ◇資料からの読み取りを行い、問いに対する結論、理由付けをまとめさせる。					
5時	安土桃山文化の特色とは?		知	○	【知】当時の政治や社会の動きに着目し、資料から本時の問い(文化の動向)につながる情報を適切に読み取り・解釈し、表現している。(ノート)	② ③
	◎戦国時代や豪商などの経済的な力を背景に、豪壮な文化が広がったこと、南蛮貿易によって西洋の文化が受け入れられ、庶民が楽しむ文化も広まったことを理解させる。 ◇結論(壮大で豪華)を提示(統一)し、ペアで資料からの読み取りを行い、問いに対する理由付けをまとめ、発表させる。					
6時	戦乱から全国統一までをどう表現しますか?		態 思	○	【態】自己の学習についてふり返り、学びの確認や調整をしようとしている。 【思】交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的などの「学びの問い」に対して、獲得した知識を活用して論述している。(ノート、発表)	① ④
	◎世界の動きに伴う日本社会への影響等の既習事項を根拠にし、戦乱の世から全国統一までを自分なりに表現し、説明する中で単元を通して、身についたこと、理解したことをふり返る。 ◇既習事項を根拠として、コンパクトで論理的に論述形式でまとめさせる。(ノートの活用)					

- ※ ◇学習活動は主として記載する。本時の問いや、◎ねらいは、なるべく記載するようにする。
- ※ 「記録に残す評価」の時間を○で示してある。「指導に生かす評価」は、基本的に毎時間行う評価である。

6 本時の学習【○/□】

Point 「本県のめざす授業像」を意識 『問いサポ』より
『他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業』

(1) 本時のねらい

Point
※ 5 「指導と評価の計画」の本時のねらいを踏まえて、具体的に記述する。
※ 授業者として単元計画をふまえ、本時でどのような力を育成したいか明記する。

(2) 本時の評価規準

Point
※ 5 「指導と評価の計画」の本時の評価規準を踏まえて記載する。
※ 児童生徒が本時の学習を通して、ねらいが達成している具体的な「学びの姿」である概ね満足のB規準を記載する。

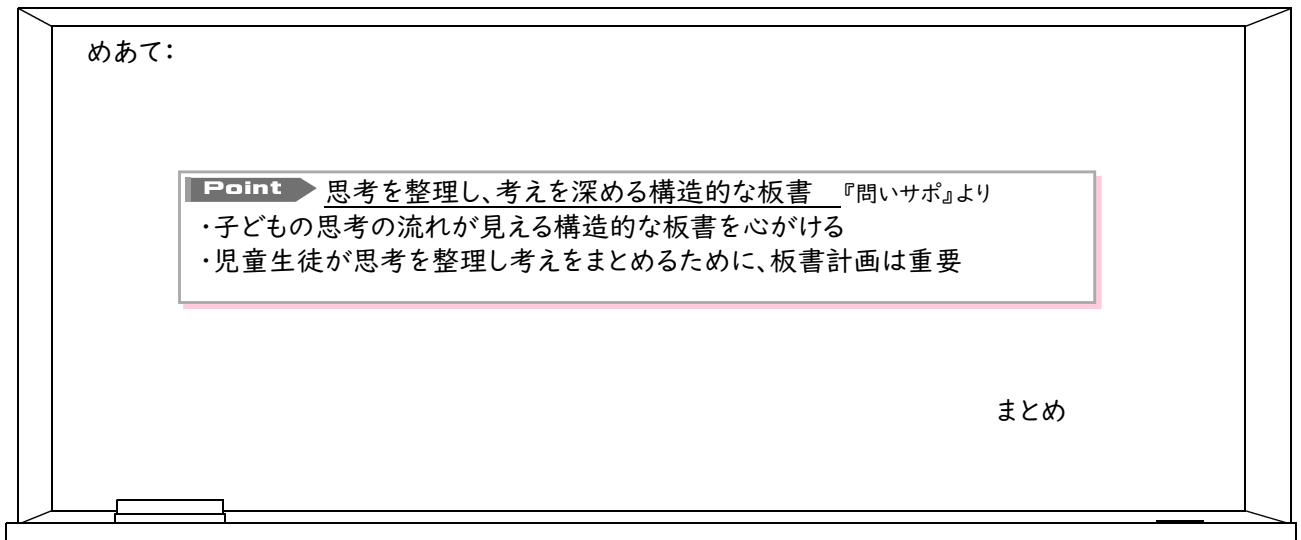
(3) 本時の授業の工夫

- ① **Point** 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、どのように本時のねらいにせまるのか、手立てや、授業形態等工夫した指導方法を示す。その際、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることがとても重要となる。
- ②

(4) 展 開 【記入例】

	学 習 活 動	○ 指導上の留意点 ★ 予想される児童生徒の学びの姿(反応等)	[評価規準] (評価方法)
展 開 00 分	1 課題の提示	Point 「コンパクトでインパクトのある導入を」 『問いサポ』より 【目指す子どもの姿】 主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ	
	2 めあて	Point 身につけさせたい力を踏まえた「めあて」の設定 『問いサポ』より 児童生徒の「問い」や「つぶやき」を生かした設定がふさわしい 予想されるめあてを記入する	
	3 個人での思考	Point 「問い」を引き出し「主体的に取り組む態度」を育てる 『問いサポ』より ・ 学習のねらいに迫る意図的・計画的な発問 ・ 思考を広げ深める発問の工夫	
	4 協働的な学び	Point 他者との交流を通し、「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める 『問いサポ』より	
終 末 00 分	5 まとめ	Point 学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ 『問いサポ』より ・ 「めあて」に正対した「まとめ」、「振り返り」の確実な実施 ・ 子どもの声や、表現した内容をもとに、まとめることがふさわしい	
	6 振り返り		

6 板書計画 【実際に板書した写真を添付してもよい。】



※ 校内研究(校内研修)と関連している際に記載。その際は、「3 単元について」の後に記すことが望ましい。

4 校内研究テーマとの関わり

【校内研究テーマ】

(例) 自らの学習を調整し、〇〇〇力の向上を目指した児童(生徒)の育成
 ~ 「見方・考え方」を働かせた「主体的・対話的で深い学び」の実践を通して ~

(1) 研究内容と本単元との関わり ※ 記載に関して様式は各自工夫して示すこと。

